めざそう！世界遺産
FOR THE WORLD HERITAGE

保存管理、研究をさらに進め 近世の価値、金沢の特質明確に

「石川県に世界遺産を」推進会議の金沢文化遺産セミナーはこのほど、金沢市文化ホールで「めざそう世界遺産―『城下町金沢』の課題」をテーマに開かれました。世界遺産総合研究所の古田陽久所長、文化庁文化財部記念物課の岩本健吾課長は、世界遺産暫定リスト追加で継続審議となった「城下町金沢の文化遺産群と文化的景観」について、金沢城跡の史跡指定が不可欠であることを指摘し、加賀藩の「近世文明」を明確に打ち出す必要性を強調しました。

開会あいさつ

これまでにない分野

米谷 恒洋「石川県に世界遺産を」推進会議実行委員長（金沢経済同友会副代表幹事）

文化庁が、全国から世界文化遺産の公募を行い、その結果が一月発表されました。全国から二十四の公募があった中で、四つが暫定リストへの推薦が決まりましたが、残念ながら、「金沢」および「白山」は、継続審査になりました。しかし審議会コメント等を見ますと、金沢の文化遺産および文化的景観については、非常に高い評価を受けておりますし、すでに登録になっております世界遺産の中では、これまでにない分野だという評価も受けております。

我々は、三年以上にわたって世界遺産キャンペーン運動をやってきましたが、こうして、今日このようにたくさんの方がお見えになるということは、県民・市民の理解も非常に高まっているのではないかと思っています。今日は皆さんとともに、しっかり勉強をさせていただきたいと思います。

基調講演

有形、無形の文化が融合 夢と魅力ある地域づくり

古田 陽久氏（世界遺産総合研究所所長）

（ふるた・はるひさ）広島県生まれ、慶大経済学部卒。15年間の総合商社勤務を経て、1990年シンクタンクせとうち総合研究機構を設立。「世界遺産学」を提唱し、1998年世界遺産総合研究所を設立、現在に至る。

世界遺産への道は、地元の方々の支援と協力が大前提となります。世界遺産に育てる夢と魅力ある地域づくりを進めていただきたい。皆さん、夢を持ってください。夢のないまちは滅びて行きます。過去の文明がいろいろ証明していることです。

今回暫定リストに四物件が文化遺産に関しては選ばれたのですが、いわゆる能楽や茶の湯などの伝統文化、金工、漆芸、象嵌（ぞうがん）などの伝統工芸、これら有形と無形の文化が見事に融合しているということです。ユネスコは世界遺産条約と昨年四月発効した無形文化遺産保護条約と二つの条約を所管しているわけですが、今後大きな課題になるのはこういう有形と無形との融合といいますか、有形遺産に魂を入れる無形遺産のような考え方が極めて重要になるのではないかと考えています。

世界遺産は登録されればいいというものではなく、なるまでのプロセスが極めて重要だと思います。また、世界遺産になったからといってもそこがゴールではなく、世界的な監視が厳しく、見る目もどんどんうるさくなるはずです。つまり、いいものにどんどん磨きがかかるということなのです。世界遺産登録に向けて地域にどのような変化が起きるのか。登録前後に予想される問題点や課題などへの対応策が必要です。この条約はいわゆる観光振興のためにする条約ではありません。あくまでも貴重なかけがえのない文化財を保護保存し、それを責任持って未来世代に継承していくという考え方です。その活用のしかたとして観光や教育というものがあるのだと思います。

日本らしい町並み

金沢という都市がどのように造られてきたのかということをいろいろ調べてみました。そういう中で都市構造として、いわゆる環濠（かんごう）都市のような特色も持っているのではないか。また、土木技術といいますか、土木遺産としての価値、そういう見方もできると思います。それから日本三名園である兼六園、そして東山ひがし地区、いわゆる茶屋町です。日本らしい町並み、そういう景観。そして重要なのは、私たちはどれが入るか予測をしまして、大体五つ前後、上位が七つぐらいかなと。実はその中に金沢は入っていたのです。ですから今回の結果には少し残念な印象を持ったのです。

積極的にリストに

金沢の何が、どのようにほかの城下町と比べ優れているのか、日本の城下町の特質は何なのかというようなところがポイントになるのだと思います。

また今後、日本が新しい物件をノミネートしていく場合、交流、グローバルな視点、世界的な視点といわれるのですが、それだけではなくて、独自に育（はぐく）んだ日本にしかないものがあるのだと思います。そういう独自性のあるものを、数多く暫定リストに載せてほしいという願いがあります。城下町金沢はその中の一つに入れてもそれにかなうものではないかと信じている一人です。

基調講演

地域から世界的価値を発信 金沢城などの史跡指定を

岩本 健吾氏（文化庁文化財部記念物課長）

（いわもと・けんご）佐賀県生まれ、東大法学部卒、1986年文部省（当時）入省。大臣官房政策課企画官などを経て2006年4月から現職。

日本の貴重な文化財が世界遺産として国際的に評価されることは非常に意味のあることだと思っています。日本の文化あるいは日本文化の良さというものが世界遺産のリストの中にどのように表れているかということを、我々は考えていかなければいけないなと思っています。それが本当に十分なのかどうか。

もし世界遺産登録を目指すのであれば、地域における文化財の価値をいちばん分かっているその地域自身が、まず、こういう価値があるのだということを発信していくことが必要です。まず地域が自分たちの文化遺産はこういう価値があるのだということを整理し認識して、保存の措置を講じていくという熱意があって、初めて日本全体で貴重な文化遺産として理解してもらえる。あるいは世界的なレベルで見ても世界遺産として保護していこうかということになるのだと思います。

非常に豊かな近世文化

ポイントになるのは、どういうコンセプトで世界に打って出るのかということです。例えば金沢城だけ見たのでは、近世のこの地域における豊かな文化というものの価値が伝わらないのだと思います。ですから、金沢の都市景観の表れている近世以来の町割や土地利用の在り方、あるいは町の機能の中で、伝統文化、伝統工芸に関係している部分やいろいろな遺産があるのだと思います。それらを本当に今きちんと掘り起こし、町全体として地域全体として総合的に、さらにはあるいは文化財保護法による国の指定や選定といったお墨付きもいただいて保存する体制になっているのかどうかということを見つめ直さないといけません。例えば、金沢城の史跡指定すらされていません。あるいは伝統的建造物群も非常にいいものがありますが、本当にそれだけで金沢の都市構造なり、伝統文化を全部表した遺産の範囲として十分か、どうかを考えなければなりません。

文化、物流のネットも

金沢の提案を見たときに、近世の社会システムの単位としては藩というのがあったわけで、その中でその城下町のみならずその周辺の、例えばそれを支えた農村などにおける生活や生業も含め、全体的に文明圏というのがあったのだと思います。それらが非常に安定した前田家の治世の中で育んできた価値というのがあるはずなのです。私が少し感じたのは、伝統文化です、金工や漆など、あるいは九谷焼もあるかもしれません。能登や加賀には、非常にいい伝統工芸もあります。そういうものが金沢という城下町を中心としてネットワークとして広がって、全体の物流や文化の連関性もあったのだと思います。金沢なり金沢を中心とした一つの文明圏の持った近世段階の価値というものを、ぜひ発信していただきたいと思います。

セミナーの議論に熱心に耳を傾ける市民らＩＩ金沢市文化ホール

パネル討論

「平和の砦（とりで）」の特質

岩本 健吾氏
古田 陽久氏
コーディネーター
井上 正男氏（北國総合研究所主任研究員）
司会 横田 幸子氏（フリーキャスター）

井上　「城下町金沢の文化遺産群と文化的景観」は、暫定一覧表追加について継続審議となりましたが、都市の骨格を成す物構堀（そうがまほり）、伝統的町並みなどが良好に保存されている点は評価されています。一方で、個別に課題も挙げられています。まず、基調講演の両氏に城下町金沢の都市構造について、もう少し突っ込んだお話をうかがいたい。

古田　八百三十ある世界遺産の中には軍事関連の城や砦（とりで）が数多く登録されています。ユネスコの捉え方は「戦跡」ということではなく、「平和の砦」です。金沢の城構え、城下町の仕組みも金沢の民衆を守る意図があったのではないか。地域を守る城構え、まちづくりを進めた優れた指導者、プロデューサー、プランナーがこの地域に存在していたといえるでしょう。これらはハード的なものですが、金沢は、地方都市で花開いたルネッサンスのまちでもあったことは強調できます。伝統工芸や芸能がそれですが、城から発信して、寺院や町家に活かしていた。つまり有形の文化に無形の文化の魂を入れていた。香り高い品格ある伝統文化。そうしたものを持っている地方都市は意外に少ないのです。

岩本　日本の世界文化遺産は十を数えますが、都市構造との関連をうまく体現できたケースはほとんどないと言ってよいでしょう。京都、奈良といった古都は、木造建造物を中心にした寺社群がコアを形成しているわけで、京都などは本来なら文化的景観、歴史的風土をコンセプトにしてもっと良い構想できたはずです。現在の文化遺産のトレンドからすると、少し古いタイプになるのかもしれません。ただし、金沢の場合、町割など近世の土地利用のあり方をもっと綿密に調べる必要があります。近世の都市構造を今も引き継いでいるということであれば文化的景観については証明がつくわけです。

都市構造の掘り下げを 高岡、加賀を含め肉厚に 代表性、独自性きちんと

岩本氏
古田氏
井上氏

高岡など類似提案への対応

井上　構成資産についてさらに掘り下げが求められる一方で、主題が類似している「近世高岡の文化遺産群」を提案している隣県、富山県の高岡との連携で、「近世文明圏」といった面的広がりを考慮する考え方もあると思います。

古田　同じ文明圏で花開いたといえるでしょう。北陸地方というくくり方がいいのか、キーワードは「前田家」です。すごい大名だったと思います。高岡、さらに加賀も含めればより肉厚なものとなるかもしれません。

岩本　単純に主題が類似しているから統合するというのではなく、城下町金沢を中心にした文明圏があるとして、より完全性を高めるのであれば加えるのもひとつの考え方です。ストーリーの説得力が強まるというのであればやればいいと思います。

井上　古田さんはさきほどの基調講演で、暫定一覧表にもっと積極的に載せるべきと述べられました。

古田　日本文化は多様です。神社仏閣ばかりではありません。日本のまちの独自性にもっと着目したいですね。城下町もそうですが、宿場町、門前町などいろいろあります。日本を代表する独自のまちづくりを世界に提示してもらいたい。城下町金沢は、民衆を守る仕組みがあったのではないか、専門家に証明していただけなければなりませんが、まさに平和の砦ではなかったのか、そんな印象を持っています。

井上 正男氏

無形文化財を取り込む動きも

岩本　金沢と主題が類似する「萩城・城下町及び明治維新関連遺跡群」は、評価が高い。城跡は国の史跡だし、城下がブロック的に保護されています。長い時間をかけて保存管理してきた経緯があります。これに対し金沢城は史跡になっていないなど、専門家の間でも日本の代表とすることに逡巡（しゅんじゅん）する声があることも知っておいてもらいたい。

井上　城下町金沢の町割など都市骨格もそうですが、代表性、独自性から金沢城の石垣が最近の研究で注目されています。「石垣の博物館」と呼ばれ、洗練された石垣の芸術はどこにもみられないものです。県では新年度、金沢城研究調査室を研究所に昇格させ、金沢市でも都市民俗文化研究所を設置します。金沢の資産の掘り起こしと保存に精力的に取り組んでいます。無形文化財も取り込むこうした動きも今後注目したい。

（文中敬称略）

城下町金沢の文化遺産群と文化的景観

近世を代表する城下町・金沢は、17～19世紀の都市の景観や発展の過程を色濃く残しています。特別名勝・兼六園をはじめ、重要文化財の石川門、三十間長屋などが残る金沢城跡、辰巳用水、前田家墓所、惣構堀など、近世以来の伝統文化や工芸技術を今に伝える文化遺産群は、併せて、世界でも希有な文化的景観を形成しています。石川県と金沢市は、平成18年11月、「城下町金沢の文化遺産群と文化的景観」の世界遺産暫定一覧表への追加記載を文化庁に提案し、「霊峰白山と山麓の文化的景観」（白山市など提案）などほかの19件とともに継続審議となっています。

運動のあゆみ

平成15（2003）年
- ▶金沢経済同友会会員懇談会で飛田秀一代表幹事が、「白山」と「兼六園」の世界遺産登録に向けた運動の展開を提言（9月）
- ▶「世界遺産登録推進特別委員会」が発足、委員長に米谷恒洋氏を選任（11月）

平成16（2004）年
- ▶「『白山、兼六園を世界遺産に』キャンペーン推進会議」を設立。石川県、金沢市、北國総研などの賛同を得、実行委員長に米谷氏を選出。「ふるさとに世界遺産を持つ意義」をテーマに、第1回シンポジウムを金沢市で開催（4月）
- ▶第2回シンポジウムを金沢市で開催、テーマは「白山の三馬場（ばんば）と三禅定道（ぜんじょうどう）」。前後して「白山こども塾」と「兼六園こども塾」を開催（7月）
- ▶第3回シンポジウムを東京で開催、テーマは「城下町金沢の文化遺産」。白山市などで「三禅定道と馬場を巡る旅」を実施（10月）
- ▶谷本知事、山出金沢市長と意見交換会（11月）

平成17（2005）年
- ▶第4回シンポジウムを白山市で開催、テーマは「白山の三馬場」（2月）
- ▶推進会議総会で「『石川県に世界遺産を』推進会議」に名称変更（4月）
- ▶「目指そう！　世界遺産」を発行（6月）
- ▶島根県・石見銀山の視察や連続啓発セミナー、「他県に学ぶ」セミナー（3回）、第1回特別講演会を相次いで開催（9月～）

平成18（2006）年
- ▶総合セミナーほか、第2回特別講演会を開催（2月～）
- ▶「めざそう!世界遺産」東京セミナー開催（3月）
- ▶推進会議総会で、富山県を含む「金沢の文化遺産を学ぶセミナー」などの事業案を決定（5月）

平成19（2007）年
- ▶「金沢の文化遺産」セミナーを金沢市で開催（3月）＝引き続き、「白山の文化遺産」セミナーを3月21日（祝・水）に白山市で、「めざそう！　世界遺産」東京セミナーを31日㈯に都内のホテルで開催＝

「石川県に世界遺産を」推進会議

金沢経済同友会、石川県、金沢市、白山市、小松市、能美市、川北町、㈶北國総合研究所などで組織。平成16年4月、金沢経済同友会の主唱で「白山、兼六園を世界遺産に」キャンペーン推進会議が発足、17年4月の同総会で、兼六園だけでなく金沢城跡など周辺の歴史遺産を「金沢の文化遺産」ととらえ、世界遺産登録の運動を進めることを決め、名称を現在の「石川県に世界遺産を」推進会議に改めました。各地でセミナー、市民塾などを開催しています。

「石川県に世界遺産を」推進会議
〒920-0918 金沢市尾山町9-13（㈶金沢経済同友会内）
Tel.076（232）0352　Fax.076（232）1533
E-mail:info@hakusan-kenrokuen.com